



第23回

日本未病システム学会 学術総会

The 23rd Meeting of the Japan Mibyou System Association

— 健康寿命の延伸と未病 —

2016.

11|5 sat. » 6 sun.

会場 九州大学医学部百年講堂・同窓会館

会長 清原 裕 公益社団法人
久山生活習慣病研究所 代表理事

抄録集



中村李樹 養生訓 墨画 1711年



七五三 受付

Polyherb supplement 美露仙寿の抗未病効果に関する考察

1) 崇城大学 薬学部 未病薬学研究室、

2) 国際漢方研究所 医療学術部門

○横溝 和美¹⁾、周 建融¹⁾、國香 清²⁾

【目的】 枸杞子、山査子、余甘子、菊花、大棗、靈芝、ヨクイニンの7種の生薬成分を含む健康飲料（美露仙寿）の抗未病効果について考察する。

【方法】 過去にヒトにおいて検討された臨床データ、我々が近年、実験動物や細胞系で検討したデータ、飲用者のアンケート調査を解析する。

【結果】 ヒトにおいて、特に免疫力が低下した患者や老年者に有効で、IL-2, IL-6産生誘導に伴う細胞性免疫の活性化作用や脳機能の活性化も報告されている。実験動物においては長期投与により、食欲や体力の増進、運動機能の向上や抗疲労効果をもつことが明らかとなった。また、分子薬理学的作用の検討においては、美露仙寿は細胞毒性を示さない濃度で分子シャペロン（HSP72, GRP78）を誘導することが明らかとなり、その有効生薬は枸杞子、山査子、余甘子、ヨクイニンであることが示唆された。また、美露仙寿は抗酸化作用を有し、疲労負荷マウスの肝臓の総グルタチオン量や脾臓、精巣におけるSOD活性を増加させた。マウス脾臓の培養細胞に美露仙寿を添加すると、IFN- γ の産生が増加しIF-4とIF-10が減少したことから、Th1型（細胞性免疫）を誘導することが示唆された。その作用には枸杞子が関与していることを明らかにした。また、美露仙寿はヒト胃癌細胞（MKN-45）にほとんど毒性を示さなかったが、生薬成分単独で調べると余甘子、菊花、ヨクイニンはヒト胃癌細胞（MKN-45）に対して強い細胞毒性を示したが、*in vivo*における抗腫瘍効果は認められなかった。従って、その抗腫瘍効果には、NK細胞等の免疫細胞の活性化が関与していることが推定された。また、美露仙寿は、腸内細菌叢を改善することが示唆された。美露仙寿には冷えに対する改善効果があり、冷水負荷後のマウスの血流量と体温回復を促進した。また、美露仙寿はチロシナーゼ活性を阻害し、また、B16メラノーマ細胞のメラニン形成を阻害した。愛用者の経験談から判断すると長期の服用によって免疫機能の増進、自律神経系バランスの是正、中枢機能の改善（抗うつ、抗不安）、アンチ・エイジングなどの効果が現れて、未病あるいは疾病の状態にある体の機能を改善すると考えられる。

【考察】 美露仙寿は単なるヘルスサプリメントというに留まらず、より積極的な効能・効果が期待できる漢方薬に近い伝統医薬品的な特徴を有しており、未病治療薬として位置づけられる可能性を有している。